

京浜島ニュースとは？

- 連合会では、京浜島で働く魅力を高めるため、京浜島の将来像（仮称 京浜島まちづくりビジョン）を検討しています。
- 「京浜島ニュース」では、京浜島まちづくりビジョン検討の経過の様子や、島の将来像実現に向けての取組みを紹介していきます。
- 今回は、その第一弾として、「第 1 回京浜島オープンファクトリー」や「まちだテクノパーク視察」の様子をご紹介します。

※ 詳しくは、裏面『～京浜島まちづくりビジョンについて～』をご覧ください。

第 1 回 京浜島オープンファクトリーを実施しました！

「お隣さんはどんな仕事をしているの？」島内には 243 社を超える企業が立地しています。京浜島まちづくりビジョンづくりの一環として、今回、『京浜島オープンファクトリー』（島内企業間の工場見学会）を実施しました。企業の壁をこえて「従業員同士」が緩やかに交流し合う関係を築くことがねらいです。

3 日間の見学会で、合計 13 社・39 名の方にお越しいただきました。参加いただいた方々からの評判もよく、「また参加したい」という声もいただきました。

■実施概要

日 時	訪問企業としてご協力いただいた皆様
4月13日（水）	平和工業、日栄産業・京浜運送
14日（木）	ムソー工業、酒井ステンレス
19日（火）	東京メタリコン、協和工業

※いずれも13時30分～15時30分

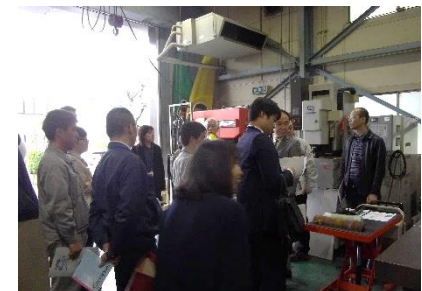
参加した方の感想

- ・他社を訪問する機会はこれまでほぼ無く、非常に興味深かった。
- ・自身が勤める会社は見学した会社とは別の分野だが、ものづくりをしているという点は一緒なので興味がある。また参加したい。
- ・自社と内容は違うが、使用している設備を見て、やってもらえることがありそうと感じた。
- ・以前に仕事の相談した際は仕様があわず、かなわなかった。工場内を見学して、どの業務で協業できそうかわかった。

■当日の様子



会社説明の様子（1日目）



工場見学の様子（2日目）



工場見学の様子（3日目）

次回

秋頃を開催予定！一緒に京浜島の新たな魅力を発見しましょう。
京浜島で働く魅力を伝えるため、工業系学校の先生もお呼びします（予定）

今後、訪問先としてご協力いただける企業様は、是非、連合会事務局（03-3790-0021）までご連絡ください。

異業種による研究開発型企业集積施設『まちだテクノパーク』視察へ！

「技術力を結集して、新しいモノを生み出す」京浜島で今後取組みを進めていきたいテーマです。町田市にある「まちだテクノパーク」では、人的交流、共同開発等、様々な機会を捉えて、企業間の連携を積極的に進め、新しいモノづくりを展開しています。

3月4日（金）に、連合会理事メンバーで視察を行いました。「まちだテクノパーク」では、設立までの経緯や共同開発までの道のりについてご説明いただきました。また、実際に共同開発によって生み出された製品などを見てまわりました。今後の島内共同開発等における大きなヒントが得られました。

■まちだテクノパークで取組む「連携」の例

共同開発	個々の優れた技術を持ち寄り、より次元の高い高度なモノを開発
共同設備利用	個々の企業が持つ設備を、組合内のだれもが利用可能
地域連携	毎秋、地域の商店会、町内会、小中高校などと一緒に、テクノパークを会場として大規模なお祭りを開催
工場見学	常時工場見学を受け入れ。例年1,000人以上が組合内の工場を見学



工場内見学の様子



共同開発による水耕栽培(まちだシルクメロン)ハウス

ご興味のある方は事務局までご連絡ください。

～京浜島まちづくりビジョンについて～

昨年度（平成27年度）より、島の将来の絵姿を描く「(仮称)京浜島まちづくりビジョン」の検討を開始し、以下のような方針をたてました。

- ◇京浜島で培われた技術力・人材を掘り起こし、魅力(「仕事」「島」「技」)を“再発見”する。
- ◇「仕事」「島」「技」の魅力を高め、若い人にとっても働きたいと思える、魅力的な京浜島を生み出していく。
- ◇島全体で採算性、創造性、社会性、継続性を高め、世界から注目を集める京浜島ブランドを磨いていく。

これらの方針の元、試行的に様々なことに取組みを進めています。本ニュースでご紹介した『京浜島オープンファクトリー』や『まちだテクノパーク視察』は、ビジョンづくりの一環として実施しました。

京浜島コラム #1

皆さんこんにちは。この欄では、京浜島の歴史や島に関する情報をお伝えしていきます。



さて、京浜島はご存じのとおり東京湾にある埋立地ですが、今回は東京湾の埋立ての歴史について記します。昔から埋め立ての理由の多くは農地の確保ですが、徳川幕府による東京湾(江戸湾)の埋立ては、狭い土地に城を構えた徳川幕府が、増える人口のための住むところのためと、それに伴いたくさん出る家庭ごみの処分場のためでした。特にごみ問題は市中の衛生状態を極度に悪化させて深刻だったようで、幕府は市中のごみを江戸城下から離れた永代島まで船で運び、そこに捨てることを義務づけました。その後、江戸市中のごみ捨て場として隅田川河口付近は、ごみを主体とする埋立地が次々と誕生しました。(京浜島連合会N)

発行

京浜島工業団地協同組合連合会

大田区 産業振興課 工業振興担当
都市計画課 計画調整担当